

004 TICA

題名	作者	コメント	評価
さんだらぼっち —髪結い伊三次 捕物余話— (文春文庫)	宇江佐真理	髪結いが本業の伊三次が、同心・不破の下っ引きを務める読み切り連作のシリーズ。すっかり伊三次ファンになった。ただ最初は宮部みゆきの『日暮し』の登場人物と重なってしまうのが切なかった。	☆☆☆ ★
紫紺のつばめ —髪結い伊三次 捕物余話— (文春文庫)	〃	タイムマシンでどの時代にでも行かれるとなったら江戸時代に行く。そこには髪結い伊三次みたいな男がいる。石森章太郎が描いた『さんだらぼっち』の“とんぼ”もいる。『佐武と市捕物控』の“佐武”もいる。CACCOはそんな時代に行ったらすぐに殺されちゃうよって言うけど、あたしは三味線かついで芸者か、長屋で煮豆売って暮らすんだもん(。)	☆☆☆ ☆★
さらば深川 —髪結い伊三次 捕り物余話— (文春文庫)	〃	伊三次シリーズは宮部みゆきタイプだったけど、これは山本周五郎みたい。明治に時代が変わってすぐの函館と横浜を舞台に英語と恋に生きた男の話。	☆☆☆ ☆
おうねすてい (祥伝社)	〃	持っている知識を使おうとして話を考えてみたんだけどって感じ。登場人物の会話は理屈っぽさの応酬で、読んでいる方が置いてきぼりをくってるみたい。	☆☆
法月綸太郎の 冒険 (講談社ノベルズ)	法月綸太郎	綾辻行人と法月綸太郎は混ざる。どっちもあんまり好きじゃないってことに最近になってやっと気がついた。	☆
黒猫館の殺人 (講談社文庫)	綾辻行人	PS2のゲームを元にノベライズした作品。私は最初のファミコン世代で、ロールプレイングになってゲームから離れたくらいだから、こういうのは苦手。	☆☆
ICO (講談社)	宮部みゆき	デビュー作。筋肉増強剤と柔道の世界のつながりを調べる柔道のコーチの女性。その女性を助ける主要の二人の登場人物のキャラクターが作りすぎていて好きじゃないし、犯人捜しも、なんだかなーって感じだった。	☆☆
栄光一途 (幻冬社文庫)	雫井脩介	『あの頃の私、<永遠>という響きにめっぽう弱かった』って帯の言葉に惹かれて読んだ。実は私は今でも弱い。地球は50億年後に太陽に呑まれて塵になっちゃうって。50億年後なんて殆ど『永遠』だけど、地球でさえ永遠じゃないってことは、永遠は一瞬と同義語か過去にしかないって気持ちをまた強くしたわけで。。	☆☆☆ ★ 『夜のピクニック』より面白かった。
永遠の出口 (集英社)	森 絵都	娘の夏休みの現代国語の課題図書だった。前のDGを引っ張り出してタツオトさんのフロイトを読み直した。	評価なんてするどころじゃない(+_+)
寝ながら学べる構造主義 (文芸春秋)	内田 樹		